

第五地連
機関紙

Absolute5

東京清掃労働組合第五地連
事務局：東京清掃労働組合葛飾支部

東京都葛飾区新富3-17-5

TEL&FAX 03-3607-7981

Email seisou-katushika@juno.ocn.ne.jp

ユートリヤに170名が結集

2016賃金確定闘争を前進させよう

第五地連総決起集会



▲ 地連・支部から本部交渉を後押ししよう

11月10日、墨田区生涯学習館ユートリヤにおいて、16賃金確定闘争勝利！第五地連総決起集会を開催しました。交渉の進捗状況の共有と代表者の決意表明によって、最終局面にむけて闘う意思統一を行うことができました。要求実現まで全組合員の総力を結集して闘いぬきましょう。

主催者を代表して、斉藤副議長（墨田）から「区長会に最終決断をさせるのは間違いなく大衆行動の力だ、第五地連が先頭に立って要求実現まで闘おう」との挨拶で集会を開始しました。続け

て、お忙しい中駆けつけてくださった、退職者会戸枝事務局長から「賃金闘争と同時に社会の構造を変える闘いを」と激励の挨拶をいただきました。本部を代表して、渡辺常任中央執行委員より、区長会との協議状況の報告を受けました。渡辺常任は、専門委員会交渉委員として、実際に最前線で当局とやり取りをしている立場から、各課題についての労使の主張と争点を丁寧に説明していただきました。

次に、参加者を代表して3名から決意表明を行いました。地連常任からは星野常任（葛飾）が「最大の武器である団結の力で、削減された賃金は取り戻す」と。一組を代表して池田墨田工場支部委員長から「設備採用予定の5名中3名が辞退したことは賃金水準が低すぎることの証明だ」と。最後に、墨田支部渡辺執行委員から「私は34歳の採用のため、資格要件の改善と賃金水準の引上げを断固として勝ち取る必要がある」と訴えました。ここで、ブロック幹事区長要請を行っていた各区代表が墨田区役所から戻り、代表して中里副中央執行委員から要請報告を受けました。

当局の煮え切らない態度の報告を受けた岡崎常任（墨田）の音頭によるシュプレヒコールで会場のボルテージは最高潮となり、山本議長（足立）の団結がんばろうで要求実現までの奮闘を誓い合いました。

区長会は、今日段階でも我われの要求に一切応えようとしなければかりか労働条件の根幹である業務給料表さえも示さない不当な態度に終始をしています。わが組合は状況打開にむけ、11日の拡大闘争委員会において、実力行使を構える判断をしました。闘いは最終局面です。各支部から怒りの声を区長会にぶつけ、交渉と大衆行動の両輪の力で最後の最後まで闘い抜きましょう。

東京清掃第三波総決起集会に結集しよう

11月15日（火）18時 連合会館



▲ 第一波集会で決意表明をする山本議長



← 星野地連常任委員（葛飾）



← 渡辺常任中央執行委員



← 池田墨田工場支部委員長



← 墨田支部渡辺執行委員

組合員の切実な声を区長会へ

山本議長を先頭に各区代表が訴え

ブロック幹事区 墨田区長要請行動



⇒ 各区代表から現場の生の声を、かつけた

11月10日、総決起集会と平行して、ブロック幹事区である墨田区長への要請行動を実施しました。山本議長（足立）、山下副議長（江戸川工場）を先頭に各区代表者、本部から中里副委員長を迎え、総勢9名の要請団が組合員の切実な声を訴えてきました。

要請は区役所82会議室で行われ、墨田区当局からは高野副区長、鈴木総務部長をはじめ、7名が出席をされました。

冒頭、中里副中央執行委員長から要請の趣旨説明、当該区の長妻中執より要請団の紹介をしまし

た。5課題32項目の要求書を書き、山本議長が読み上げ、各代表から課題別にそれぞれ現場の生の声をぶつけました。

水落中執（葛飾）からは、「設置基準は数の括り無くすなど区長会として踏み込んだ対応を」、「技能長のスキルアップとそれぞれの区の清掃事業の発展のためにも、人事交流や派遣制度を23区統一的な制度に」と技能長、統括技能長に関する課題について。

金子中執（江戸川）からは、「民間で、入社後次のステップに昇任するまで10年かかる会社はない」と任用資格基準の改善について。

田口中執（江東）からは、「年金支給開始年齢に62歳に引き上げられ

ていることを考えると、考えれば、本来、すでに解決されていなければならぬ課題」と、再任用賃金など雇用と年金の接続について。

最後に、当該支部の遠田委員長から「超高齢化社会を迎えるにあたり、区民の声を傾け、ニーズを汲み上げ、更

なるサービスの拡充をと、職員一丸となって取り組んでいる」、「職員が、退職まで安心して働き続けられる賃金水準と労働条件を確保することが区民サービスの向上に繋がると、要求書の内容と要請に対して誠意ある対応を求めました。

これに対して当局から踏み込んだ発言は引き出せませんでした。組合員の切実な思いは十分に伝えることができたはず。区長会との交渉を前進させるため、引き続き職場からの闘いを強化しましょう。

また、23区内においても防災マニュアルの整備は進んできましたが、横浜では「作って終わり」ではなく、住民との連携をはじめ、防災訓練を行ったうえで不備が見つかれば、あらためて当局に要求をし、毎年改善をしていくとのことです。

笹川副会長（八王子）からは「自治研活動と職場の活性化」について講演を受けました。最終処分場がひつ迫し、三多摩全体で有料化の動きが出た当時、組合に相談もなく当局が一方的にプレス発表を行って以降、当然反対の闘いをしながらも、市民アンケート、労使での検討委員会の設置などを経て、戸別収集を開始するに至る経過を丁寧に報告していただきました。

現在民間に委託されている所ですが、回収されてきたビン、缶、ペットボトルなどを、熟練の労働者が手選別で仕分けをしている様子が映像で紹介され、凄まじいスピードでの作業に圧倒をされました。

政策事業と労働条件の二本立てで協議をしながら、市民に対しては組合員自らが1軒1軒訪問・説明をして関係性を構築することによって自分たちの仕事の重要性を知ることになったこと。自信ややりがいに繋がって、単なる収集ではなく、市民としてしっかりコミュニケーションがとれる職員になってきたことなど、各区における自治研活動や直営職域の拡大にむけた当局交渉にも参考になる内容でした。とりわけ、23区では

縦割り行政の払拭が必要

11月5日、SKホールにて、都本部現評清掃部会の学習交流会が開催されました。八王子市職の清掃職場における自治研活動と職場の活性化についての講演をはじめ、横浜における分別の罰則制度や資源化施設の状況などを学ぶことができました。

取り組みが遅れている他部署との連携について八王子に学ぶことが多く、縦割り行政の払拭が市民サービスに直結することがよく理解できました。東京清掃の自治研学習会でも登壇いただいた内容ですので、その時に聞きましたと思いますが、機会があれば第五地連としての学ぶ場も作ってほしいと考えています。（議長・山本英広）



▲ パワーポイントを用いて丁寧にお願いいただきました

機関紙リニューアル☆
今号より紙面を刷新し、タイトルを「Absolute5」に変更しました。第五地連と構成区が5つであることから、地連内支部の絶対的な絆をイメージしました。よろしくお願ひします。☺